

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3272100284		
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67-2		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町村受理日	平成30年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年10月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今期目標は「可能性を広げるケア」～得意になる作業で毎日元気～  
これに基づき、一日の流れに取り入れ、その方の「とっておきの一日」を選び、どなたもまだ出来る・もっと出来る可能性につなげています。(家事で言えば、包丁研ぎからさばく、盛り付け・食器の片付けまでの過程がまだ出来る・もっと出来る人です)  
また職員同士が共有しあえるケアに向け、社内での協働学習も年毎に充実しております。社外研修も意欲的に参加を試みています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営推進会議や公民館での講師、「はるひだより」地域版1900部の配布など継続して行い、地域の中の事業所として積極的に活動している。行事には利用者全員で参加し、住み慣れた地域で馴染みの関係が継続出来るよう取り組んでいる。「可能性を広げるケア」を今期目標に掲げ、野菜を切るだけではなく包丁研ぎから始めて調理することや加工場でしいたけの軸切りをするなど、得意なことが広げられるよう支援している。職員は内・外部研修や、5分間スタディとして介護の基本を改めてテキスト学習するなどケアの質の向上に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、月2回のミーティング時にスタッフ全員で理念の唱和を行い、理念に沿ったケアを心がけている。理念に基づき年度計画の取り組みの中、月間目標も取り入れ行っている	理念に基づいた年度計画、月間目標を作成し利用者を人生の先輩として敬意思いやりを持って、楽しく過ごしてもらえるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、近隣の住民の方、児童・学生、民生委員との苑内外での交流も多く、はるひ便り地域版の発行により町内の方々からのお声かけも年々増えている	地域行事への参加、自治会、近隣住民との交流を積極的に行っている。買い物で「はるひだより見たよ」の声掛けがあったり、運動会は全員で見学しパン食い競争に参加する人もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「はるひだより」地域版で認知症やグループホームについて、またははるひ苑での皆様の日々と暮らしぶりを写真と文面でお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加される方々が自由に意見等述べていただけのような雰囲気作りを心がけ、息の方々にも参加の声かけを行っている。サービスの向上に活かせるよう努めている	公民館、保育園、他のグループホームからの参加があり活動報告や話し合いを行っている。「はるひだより」地域版で会議参加者募集の案内をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は地域包括、役場会議へ参加し、状況報告、情報交換を行い連携を取れるよう努めている	日頃から情報提供や意見交換、相談を行っている。研修会、学習会の開催などを通し協力する関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外の研修を実施、防犯のため夜間のみ施錠を行っている。身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる	会議や研修などで理解を深め自己評価表をチェックし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ドラッグロックはしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者を取り巻く虐待の現状を知り、社内・外の研修を実施 チーム全体で知識・意識の向上を目指し、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し、それらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	会社幹部・管理者が主に説明し理解を得られるよう図っている。改定時には書面にて十分な説明および質問などを受け付けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席いただき、意見・要望等を表せる機会を設け、反映できるよう心がけている	家族会や運営推進会議、面会時、たよりなどで日頃の様子を伝え、意見や要望を聞きサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング、申し送り時等意見・要望を聞く場を設け、毎月の個別面談なども実施し、職員の意見を取り入れるようにしており、早めの対応に努めている	職員と日頃から言い合える関係づくりに努めている。今期から管理者が毎月短時間の個別面談を行いよりコミュニケーションが良くなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価、人事制度を取り入れ、各自向上に向けての環境作り、スキルアップ研修もを行い、連携の取れた明るく楽しいやりがいのある職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修、苑では協同学習も取り入れ、学ぶ機会を極力持つようしているが、社外の研修は地理的な面で幅広い研修に参加できないのも事実である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田管理者交流会、津和野地区オレンジの会での情報交換、町地域包括センターが催す研修等に参加し、講演会および話題の提供や問題点など話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いをしっかりと傾聴し、安心してサービスが受けられるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思い・意向に誠意をこめて傾聴し、良好な関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、面会時にご本人、ご家族の思い・状況を確認し、他職種との連携を図りながら最善の対応を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として暮らしの知恵や地域の伝統、風習等を教えていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを郵送し、必要時には電話連絡にて状況報告を必ず行っている。家族様の要望・相談にも応じている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、馴染みの場所には極力出向き、つながり・交流を大事にしている	家族の面会や馴染みの場所へのドライブなど外出の支援をしている。近隣の公民館に出かけると知人と出会うことも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の役割、居場所作り、気の合う利用者同士の関係が保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見取りをさせて頂いたご家族様とも終了後もいい関係が保てるよう常に声かえをさせて頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通じ、希望・意向の確認を行っている。表情・行動・言動からの思いを汲み取るようつとめている	生活歴の把握や日頃の会話の中で意向の把握に努めている。難しい人も声の高さや表情、体全体、手の動きなどで本人の要望、思いを汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント(本人、家族からの聞き取り)、必要に応じて医療関係者、担当ケアマネージャーからの聞き取りを行い把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時、勤務交代時の申し送りで、口頭での情報伝達・共有および記録を通して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、他職種との連携を図りながらケアマネージャーに沿い、チーム全体で状況把握・意見交換等が円滑に行えるようにしている	利用者、家族からの要望や暮らし方を聞き、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。毎月のモニタリングで見直した内容は線を引きわかりやすいようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と介護計画を連動させ、把握・実践・見直しに活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握、チーム内での情報の共有、意見交換を行い、柔軟な支援・サービス提供が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等には積極的に参加させていただき、地域との交流・関係作りを大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診のほか必要時には相談・受診を行っている。主治医のほかに、眼科、皮膚科、歯科、整形等の専門科への受診も行っている。	以前と同じかかりつけ医を継続し、受診や往診の支援をしている。緊急時にも必要な情報を提供し適切な医療を受けられるように協力医療機関と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて報告・連絡・相談を密に行い、適切に対応できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時以外にも特別に変化があった際には相談できる体制作りを整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望に沿えるよう確認・説明を行い、その内容がチーム全体で共有でき、ケアに繋がるよう取り組んでいる (今年に苑での看取り1名あり)	利用者、家族の思いを尊重し医師や関係者が十分に話し合い事業所で出来ることを伝え対応している。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を受けている。日頃から職員間、他職種間との連携がスムーズに取れるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施にて連絡体制・避難方法等の確認を行っている。同地区内の災害対策会議にも出席している	風水害のマニュアルを作成している。年2回の訓練の実施や運営推進会議での検討、地区内の対策会議への参加で協力体制を築いている。過去に大洪水の経験があるので情報収集など機敏な対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人としての尊厳」の理念の基、心のこもった言葉かけ、関わり、対応を常に心がけている。共有スペースにて利用者同士のトラブルが発生しないよう穏やかに配慮している	人生の先輩として敬愛し一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応をしている。利用者の笑顔が出るような支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望を汲んだり、行動・表情からその方の思いを探り、自己決定できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業計画により一日の流れの見直しを行い。自己決定・選択を大切に、「まだ出来る・もっと出来る」をフレーズにとっておきの一日を過ごしていただくよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる環境作り。ときに相談・お手伝いをさせていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消をこころがけ、皮むきから洗う、切る、煮る、味付け、盛り付けとそれぞれの調理法を伺い、ともに食を楽しみ、ともに片づけをしている	漬物作り、行事食づくりなど一人ひとりの力を引き出し職員と一緒に取り組んでいる。包丁研ぎから始め、調理から片付けまで出来る人もある。地域の人からもらった器に季節の食材を盛り付け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとに栄養バランスを考慮、食事量、水分量ともに記録、申し送りにより状況把握・共有に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後(特に夕食後)、個々の自立度に応じて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と情報交換・共有を密に行い、羞恥心に配慮した支援を心がけている	一人ひとりの生活パターンに合わせたトイレ誘導をしている。体調変化で一時的にオムツになっても不快な思いにならないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食事量、適切な運動に十分気をつけ、苑独自の野草茶の効果にも期待している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一定の湯量・温度にあわせて入浴できるよう配慮している。負担の大きい方は安全に入浴できるよう二人介助を行っている	希望に沿いゆっくり入浴出来るように支援し、入浴時に洗濯板を使用して小物を洗うことが出来る人には柔軟に対応している。ボディソープではなく一人ひとりの石鹸を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・心理面・環境状態を常に気かけ、状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更・中止の際には情報共有をし、その後の様子の観察・記録を行い、職員間、医師との連携がスムーズに取れるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント、モニタリングを通じ、出来ること、得意なことが「まだ出来る・もっと出来る」に繋がるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭、畑への行き来、精米や食材の買出し等日々外出の機会が設けられるようにしている。馴染みの場所等個別の対応も行い、地域の催しには積極的に参加している	催しへの参加は全員参加を基本としている。地域の人に車椅子移動を手伝ってもらうこともある。遠出のドライブや近場での散歩など一人ひとりの希望を聞きながら出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している(スーパーのレジで支払をされるなど)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご希望に応じて電話をお繋ぎしている。お手紙が届けば返信できるようお手伝いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を彩る花々を一緒に手入れすることで一際喜ばれ、月2回の生花も取り入れることでより快適に過ごせるよう工夫している	廊下や食堂には行事や日々の活動の様子がわかる写真がたくさん飾られている。生花や飾り物で季節感のある空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、畳の間、中庭を活用し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた生活様式、使い慣れた家具等が継続できるよう工夫している	家族写真や毎年撮っている誕生日写真、書道の賞状などが飾られ安心して過ごせるよう配慮している。ドアには手書きの表札が貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	炊事・洗濯・掃除等個々の状況に合わせて昇降台もりようするなど工夫をしている		